

事業

(法人定款に記載された事業より引用)

1. ぷれジョブの理解啓発事業
2. 生きづらさを抱えて生活する人とその支援者等の存在を支援する事業
3. 子どもと大人と一緒に創ったあそび場文化（児童詩誌『きりん』等）の紹介事業

子どもの存在を「親の所有物」でも「教え導く対象」でもなく、自立した個人としての権利を有する人間として尊重する姿勢が、ぷれジョブ®の根底にあります。『きりん』は家族以外の大人と子どもの中で「わたし」が成長する場、親ばなれを促す場でもありました。

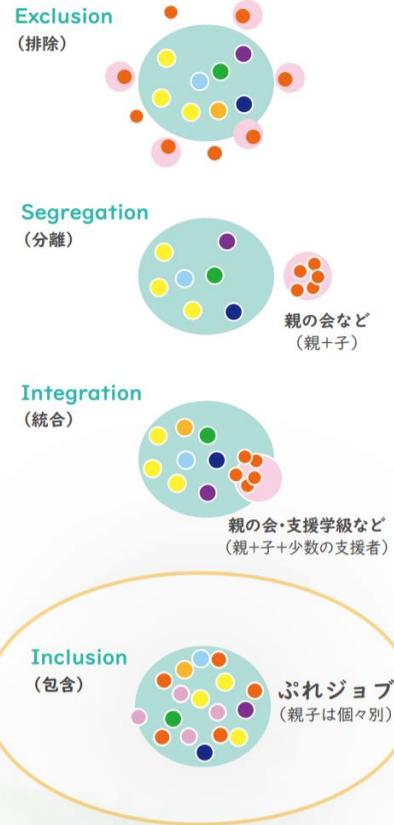
『きりん』には、自由の思想と哲学的なエゴイズムが一貫していたことで、人間の為し得る最も強い、悲しいけれども美しい魂の表現があったと考えております。

浮田要三 『きりん』の話より



『きりん』1953（昭和28）年4月号

コミュニティデザイン



ぷれジョブ®は、思春期の子が1週間1時間、親や学校を離れて居住地にあるお店などで過ごすことで、未知の生き方や働き方に会おう仕掛けです。そのままの自分で生きることができるよう8年間かけ、青年期には自立した「個人」へと成長します。おとなは生き生きとした子どもの成長から力を得ます。

◎サポート会員加入のお願い

「浮田要三と『きりん』の資料室」を支えてください。

会費：101万円より（特典として研究誌を進呈します。）

振込先 ゆうちょ銀行 記号15440 番号39805851

他金融機関から 店名:五四八 口座番号:3980585

口座名義 一般社団法人ぷれジョブ

一般社団法人ぷれジョブ



人間とは、悲しみの塊（かたまり）である。

浮田要三

生まれ変らなくてもいい

生きづらさのある子どもが、できることなら生まれ変わりたいと願っているとしたら、私たちおとなに何ができるでしょう？

「生まれ変らなくてもいい。このままの自分で大丈夫」とその子が思える社会を作ることにはしか答えはないでしょう。おとなの理想に添った姿ではなく、子どもが生まれ持ったままのままだに生きることを、おとなが丸ごと認められるかが鍵です。私たちは、この大切な鍵をどこかに置き忘れて来たようです。

太平洋戦争が終わったわずか3年後の大阪で発刊された子どものための“世界一美しい雑誌”『きりん』をご存知でしょうか？雑誌にかかわった詩人や画家たちが、子どもの真ん中から出てきた詩や作文や絵に驚いたり、たじろいだりしながら、深い敬意をもって、まったく対等な立場で遊び続けた『秘密基地』でした。自分らしさが圧殺され生きづらさが充満する今日の社会にこそわけへだてなく認められ、自立した個人が育つ基地が必要です。

私たちは、縁あって長年『きりん』を編集された現代美術作家の浮田要三氏と出会いました。生涯をかけて子どもと向き合い、「人間とは何か？」を問い続けた仕事は、今もなお生きています。資料室では、氏が若き日に心血を注いだ『きりん』や作家として参加した『具体美術協会』に関する貴重な資料を保存・展示すると共に、『子どもの本質』を生きた生涯を後世に伝えます。

浮田要三と『きりん』の資料室

〒384-0055 長野県小諸市柏木7-35
一般社団法人ぷれジョブ事務所内(研究員:宮尾彰)
問合せ先 090-5796-7506 miyao.0107@gmail.com